

令和4年度 自己評価の結果と改善方策等

	評価項目	自己評価結果と改善方策等
1	確かな学力の育成に関する こと	I C Tの効果的な活用について研究を進め、学び合い活動におけるツールとして授業に活用することが定着しつつある。今後も確かな学力に繋がられるように推進する。
2	豊かな心を育てる教育の推 進に関すること	地域教材を活用しての学習が実施でき、地域への関心が高まった。今年も児童の読書冊数は、年間約1万冊を超え（一人平均約50冊）読書意欲の継続が見られた。
3	生徒指導の充実に関するこ と	各種アンケートの実施や児童への聞き取り等未然防止、早期対応に努めた結果、昨年度に比べ、いじめ認知件数が減少した。児童理解に努めブレない指導を継続したい。
4	運動に親しむ習慣づくりと 体力の向上に関すること	年間を通じて外遊びを推奨し、過半数を超える児童が昼休みに運動場で遊んでいる。放課後の陸上練習に参加する児童も増えるなど、運動に対する意識の向上がみられた。
5	食育の推進と心身の健康づ くりに関すること	今年度も黙食を継続し、委員会児童の放送に耳を傾け、知識を得るとともに食事に集中することで残菜も少なかった。次年度、どこまで制限を緩和するのかが課題である。
6	人権教育の推進に関するこ と	同和問題を扱う6年社会科の指導案や「人権について考える会」の発表原稿を地域の方に添削いただき、創り上げる体制が整いつつある。今後も、日常的に人権感覚を磨き、人権教育を本校の教育の核と捉え教育実践を行う。
7	特別支援教育の推進に関す ること	特支コーディネーターが中心となり、児童の特性等を全教職員で共通理解し指導にあたった。個に応じた支援が適切に行えるよう、関係機関や保護者と連携を深めたい。
8	教員の資質向上と教育指導 体制の充実に関すること	授業改善の視点やI C Tの効果的な活用について研修、実践することで教員の自己効力感が高まった。コンプライアンスに関する意識も研修を重ね、定着している。
9	安心・安全で質の高い教育 環境の整備に関すること	地域諸団体や関係機関と日常的に連携し、児童の安全について情報交換を行った。校舎等の点検、補修を行い、用務員と連携し速やかな対応に努めてきた。
10	家庭や地域との連携・協働 に関すること	年3回の学校運営協議会を開催し、協議課題を学校運営に生かすことができた。地域コミュニティに協力を仰ぎ、新しい行事を行うなど、協働・連携体制を構築してきた。
11	働き方改革・業務改善に関 すること	年度当初から超勤時間を知らせるなど啓発を行ってきた。ナビルカクロック導入でさらに意識の高まりが見られるが、次年度以降さらに意識を高めていきたい。

